

ろくおん通信

No. 137

発行日 2004年11月15日
発行 盲人情報文化センター
録音製作係

聴いてわかる録音図書を作るために

誤植

久保 洋子

墨字の本には時々ミスプリントがあります。

マニュアルでは図書館が団書館となっているような時には訂正して読んでよいことになっていますが、実際に誤植と思われるものに当たった時、どう判断するかは仲々むづかしい問題です。

録音図書製作ボランティアの仕事は視覚障害者の「目の代わり」をすることだと言われます。

そうであれば、誤植も含めて見た通りに読めばいいのでこれが製作の基本です。

このことを私たちは「原本通り」と言っています。

先に上げた図書館と団書館は目で見た所ではよく似た文字で団書館から図書館を容易に推定することができますが、発音してしまうとよく似ているとは言えなくなってしまいます。

これがこのような例は訂正して読んでもいいとされている理由だと思えます。但しここでも原本通りの原則は忘れてはなりません。

例えば二刷、三刷と版又は刷を重ねていくと明らかになった誤植は訂正されています。

しかし、初版一刷を読んでいる時には誤植もそのまま読むのが基本です。一刷と読

んでいておかしいと思う所を二刷、三刷を参考に訂正して読むのは原本通りとは云えません。

私たちは「目の代わり」をしているのであって本の校正をしているわけではありません。利用者のために親切にしているつもりでも気がついた所だけ直したりすることで著作権法上の問題が出て来かねません。もし、二刷、三刷も出ている原本であれば出来るだけ新しい刷（版）のものを購入して原本通りに読んで下さい。

Q & A コーナー



Q 音声訳していて、難しい言葉などが出来た時、語句の説明をすると、やりすぎだとして校正であがるのですが、難しい言葉の補足をしては駄目なのでしょうか。

A 時々、この語句は難しいからという理由で、語句の説明を入れて読まれる方があります。

音声訳では、難しい語句だからといって語句の意味を入れながら読むことはしません。「難しい語句」は人によってまちまちです。音声訳者にとって「難しい語句」でも、その本を聴く人にはよくわかっている場合もあります。図書館関係の本の音訳で「書架」の語句に、「難しい言葉」だとして、説明を入れられたことがあります。しかし、図書館関係者にとっては、「書架」が「本棚」のことであることは自明のことです。しかし、音声訳者にとっては聴いたこともない語句だったので、説明を入れて読まれたようです。また、ある小説で、カタカナで書いてある外国語が出て来て「重要な語句」だからと日本語訳を言い添えては駄目なのかといった質問もありましたが、どちらもやりすぎです。音訳者はあくまでも目の替わりをすることであり、難しい語句の解説をすることではありません。「難しい語句」は、晴眼者も視覚障害者も条件的には同じことです。

語句の補足をする基本は、「見えないことで情報が足りない部分」を補足します。

たとえば、①外にも同音異義語があって、文の流れからは別の語句に間違っただけで伝わるような時、②著者の造語で漢字を見ている人はわかるが、音だけではわからないような時などは補足をしなくては文の内容が正確に伝わりません。

語句の補足の仕方は、

①の場合の基本は、どの熟語かがわかるように補足することです。漢字をわからせることではありません。

②の場合は、使われている漢字を説明しますが、著者の意図がわかるような字の説明をします。

くれぐれも音声訳では「難しい言葉」の補足はしないのが原則です。

Q 目次の読み方で階層化して読む方がいいのか、そのまま読む方がいいのか悩むのですが。特に中項目が通し番号になっているような目次で悩むのですが。

A テイジー図書の場合、これまでのカセットテープと違い、移動や検索が簡単にできる為、階層化して読むケースが増えてきます。これはどこに移動しても、今、どこを聴いているかがすぐわかるように、1-1-1、000とか、2-2、000などと、項目の階層がはっきりわかるように読む読み方のことです。

テイジー図書の場合は、階層化して読むのを原則としていますが、ものによっては原本通りに読む場合もあります。

小説などは普通は階層化して読みません。また、目次によっては、レベル2が通し番号になっているようなものがあります。例えば、第1部が5章まであり、第2部が6章からはじまり10章まであり、第3部が11章からはじまるといったケースです。こうした場合、機械的に、1、00 1-1、00・・・1-5、00、2、00、2-6、00と読んだり、または、2-1（6を1に変えて読む）、00といった読み方をすることがあります。

しかし、これでは、原本の目次がレベル2が通し番号になっていることがわかりにくくなります。特に、原本の作りが通し番号に意味を持たせている場合もあります。こうしたケースでは、第1部、00、第1章00・・・、第2部00、第6章00と、原本通りに読む方がはっきりすると言えます。この場合テイジーで編集する場合は、第1部をレベル1、章をレベル2で編集していきます。

デイジー編集についての Q&A

Q 目次が無い本ではデイジーではどのように編集したらいいのでしょうか

A

はじめから目次のない本も結構あります。デイジー図書の場合、凡例で、目次が無いことを断ります。目次がなくても、本文に項目があればその項目をセクションで区切ります。本文の項目がレベル1まであったり、レベル2まであったりしますが、本文の項目の階層に合わせて区切ります。

本文にまったく項目がないケースもあります。この場合は、著者が「*」「☆」などの記号や行あけ、空白ページなどで本文を区切っているような時は、それを目安に区切ります。但し、行あけなどで区切る場合、ページのはじめや終わりが空いていることがあります。うっかり見落とす場合がありますので注意が必要です。こうした区切りもなにも無い場合、およそのページ単位（仮に10ページ単位など）に区切るといったことも考えられます。

どちらにしても目次の無い場合、どのように区切っているかはデイジー図書凡例でコメントします。

例 この図書の階層はレベル1です。目次はありませんが、本文の項目をレベル1で区切っています。

Q プレクストークの再生専用機が発売されたと聞きましたが、詳しいことを教えてください。

A

今回の、シナノケンシ株式会社から、デイジー図書の再生専用機、「PTN1」が発売されました。

価格は36,750円と安くなりましたが、「PTR1」と違い、日常生活用具として認められていませんので、全額自己負担となります。（一部自治体では認めているところもあるようですが）

機能の特徴は

①簡単お休みタイマーが付いたこと。

※これは、夜聴いていて眠ってしまうと朝まで再生していて、どこまで聴いたかわからなくなり、不評だった点を改良しています。スリープモードはボタンがあり、押すことで、オフ、30分、60分、90分、120分まで簡単に設定できます。

②スピーカーの音質が良くなりました。

③数字キーは無くなり、十字キー、スピード・音量・トーンなどのアップダウンキー、お休みタイマーキー、しおりキー、情報キー、再生・ストップ、送りキー、戻しキーのボタンにまとめられ、操作も簡単になっています。

※ 多くの利用者から、数字などキーが沢山あり、操作が複雑で使いこなせないといった声があり、シンプルにすることでこれまで操作が苦手だった人も使いやすく改良されています。

また、一般的には公開されていませんが、

①さらに高齢者など限られた機能だけを使いたい人の為に、キーを制限することもできます。

②スリープタイマーモードもあらかじめ設定してしまうこともできます。

③一時ストップから再生の時に、設定した秒数（1～10秒）だけ自動的に戻って再生する機能（録音したものを文字に起こす時に便利）

といったものも設定することができます。

この非公開の機能は販売店からメーカーに希望を伝えればメーカーから設定をおこなった上で出荷するそうです。

各種 勉強会のお知らせ

プライベート製作チーム勉強会（毎月第4水曜日 1時半～3時）

11月の勉強会では、「Recdia」のソフトを使って「パソコン録音」のデモを行いました。最近、利用者からデイジーでの製作依頼も増えています。プライベート製作チームもパソコン録音を可能な限り推進していく予定です。

はじめてグループの方も歓迎します。どうぞ勉強会にご参加ください。

12月22日（水）・図、表の読み方
・プライベート図書依頼

< 2005年度 >

1月26日（水） / 2月23日（水）・

専門音訳講習会「図表コース」のご案内

盲人情報文化センターに於いて、来年2月1日（火）より、下記の内容で専門音訳図表コース（基礎編）が行われます。

この講習会を受けるには、直接、1月18日の適正テストを受けて頂くことになります。

地元の館（近畿視情協加盟館）の推薦を受けて、参加を希望される方は地元の図書館にお尋ね下さい。

| | |
|------|---|
| 内 容 | 講習会終了後は講師の推薦があれば、近畿視情協の専門音訳理数チームに参加して活動することができます。 |
| 日 程 | 2月1日(火)～3月1日(火) 毎週火曜日午前10時～12時・全5回 *1月18日(火) 午前10時から適性テストを行います。 |
| 講 師 | 久保 洋子氏（近畿視情協理数音訳チームリーダー） |
| 定 員 | 20名 |
| 資 格 | 現在、音訳活動をされている音声訳ボランティアで、図表などの音訳に興味がおありの方 |
| 申込方法 | 申込用紙を提出（適性テストがあります） |
| 申込締切 | 2005年1月15日（土） |

1. 受講料 1,000円（全5回分）

2. 申込先 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
社会福祉法人日本ライトハウス盲人情報文化センター
専門音訳講習会係

TEL 06-6441-0015/FAX 06-6441-0039

利用者から製作依頼を受けている原本

この本は利用者から依頼を受けている本です。

音訳をして頂ける方がありましたら、清水までご連絡ください。

『古代大和 第8号』古代大和を考える会編 <170ページ>